

令和 7 年度 県立常陸太田特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆安心して過ごせるあたたかく笑顔あふれる学校 ◆一人一人の学びを大切にしている学校 ◆家庭や地域とともに歩む学校		
昨年度の○成果と●課題	重点項目	重点目標	達成状況
○マニュアルを踏まえた各種避難訓練等を実施し、体制の確認をするとともに、災害時の引き渡しの際の課題を整理し改善策の検討を行った。 ●環境整備の徹底と危機管理意識の更なる向上	安全・安心な教育環境づくり	①学校事故等の未然防止と危機管理体制の強化（整理整頓、安全点検の徹底、ヒヤリハットの共有、各種マニュアルの改善等） ②家庭や地域と連携した安全管理 ③健康教育と道徳教育の充実 ④校内の相談・支援体制の強化（早期発見・早期対応、関係機関との連携）	B
○外部専門家や自立活動教諭による研修会の実施並びに計画訪問を活用した授業改善に取り組み、子供が主体的に学ぶための工夫の視点について整理した。 ●校内研究の充実による授業づくり及び授業改善の推進	一人一人の学びの充実	⑤考える力を育み「わかった、できた、もっとやってみたい」を引き出す授業づくり ⑥単元計画を踏まえた授業デザイン ⑦ICTを効果的に活用した学習指導及び支援の充実 ⑧教科の学びを支える自立活動の指導の充実	B
○小・中学部における体験的な学習の目標を各教科等の目標を踏まえて再確認し、内容の見直し改善を図った。 ●OTA キャリア教育プランの目標や系統性の再確認と地域と連携した教育活動の更なる充実	キャリア教育の推進	⑨家庭や地域と連携した小学部からの系統的なキャリア教育の推進（OTA キャリア教育プラン） ⑩地域資源を活用した教育活動の充実（OTA ぶどうプロジェクト、社会人講師の活用） ⑪あいさつの習慣化 ⑫コミュニティ・スクールを生かした開かれた学校づくりの推進	A
○体験的な活動をとおした学校間交流を行うとともに、地域の学校等の要請に応じた支援の充実に努めた。 ●本校の教育活動の積極的な発信による特別支援教育に関する理解促進	地域の特別支援教育の推進	⑬心のバリアフリーを目指す交流及び共同学習の内容の充実 ⑭多様なニーズに応じた助言・援助の強化 ⑮関係機関や専門家と連携を図った支援の充実 ⑯積極的な情報発信（保護者、地域、学校等）	A
○classroom を活用して情報共有を行うなどして会議時間の短縮を図り、授業準備の時間の確保に努めた。 ●校内研修の更なる充実と業務の効率化の推進	高い専門性と働きやすさ	⑰特別支援学校教員としての専門性を高める研修の充実と学びの共有（自立活動、授業改善等） ⑱チームで支える教育体制の整備（ティーム・ティーチング、情報共有） ⑲風通しの良い職場づくり（報告・連絡・相談の徹底） ⑳ICT等を活用した業務改善とタイムマネジメントの推進	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	教職員の危機管理意識の向上と安全・安心な教育環境作りの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフチェックシートの活用 ・ヒヤリハット事例の共有 ・安全点検の徹底と迅速な対応 ・危機管理体制の見直し・改善 ・各種対応訓練等の実施 ・児童生徒支援状況等の情報共有 	①②③④ ⑪⑱⑲	B	<p>○施設点検・修繕の徹底や整理整頓、個人情報等の管理徹底により、安全・安心な教育環境を整えた。</p> <p>○各部での緊急時対応訓練やシミュレーション、各種避難訓練等により、教職員の危機意識の向上につなげた。</p> <p>○スクールカウンセラーとの連携やケース会議の実施等により、児童生徒の不安軽減と支援方法の具体化を図った。</p> <p>●ヒヤリハット事例を活かし、事故等の未然防止につなげる必要がある。</p> <p>◇ヒヤリハット事例の共有と活用を図るためのシステムを整備する。</p>
教職員の 育成及び 指導・監督	校内研究の活性化による教員の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の内容及び方法等の明確化 ・校内研修の充実 ・校外研修内容の共有 ・授業公開と研究協議の充実 ・授業評価における指導助言 	⑤⑥⑦⑧⑩ ⑰⑱	B	<p>○「わくわくポイント」をキーワードとして「授業デザインシート」を活用した授業設計を行うとともに、「授業レベルアップシート」を用いたRPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだ。</p> <p>●教科の特質を踏まえた「わくわくポイント」について、より一層研究を深める必要がある。</p> <p>◇教科の特質と児童生徒の実態を踏まえた教材研究を推進し、さらなる授業力の向上を目指す。</p>
対外活動	学校運営協議会を活用した地域と連携した教育活動のさらなる充実と理解促進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員との連携・協働 ・地域資源及び人材の活用 ・ホームページや新聞等を活用した情報発信 	⑨⑩⑫⑬⑭ ⑮⑯	A	<p>○学校運営協議会の熟議を踏まえ、新たな取組を実施するとともに、ぶどうプロジェクトや社会人講師を活用して地域と連携した教育活動を推進した。</p> <p>○HPの更新・拡充や新聞掲載など、積極的な情報発信に努めた。</p> <p>●学校運営協議会を活用した組織体制のさらなる強化が必要である。</p> <p>◇新たな地域資源や人材を発掘し、地域と連携した教育活動のさらなる充実を図る。</p>

コンプライアンス確保	教職員のコンプライアンス意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服務規律等の情報提供 ・ コンプライアンス研修の内容の充実 ・ コンプライアンスに係るセルフチェックシートの活用 	⑪⑬⑱	A	<p>○外部講師を活用した研修を行うほか、コンプライアンスに係る専用 classroom を活用した情報提供や、各種セルフチェックシートを用いたセルフチェックを定期的に実施した。</p> <p>●繰り返し研修やセルフチェックを実施し、教職員一人一人の当事者意識の向上を図る必要がある。</p> <p>◇教職員が自分事として捉え、当事者意識の向上を図るためのコンプライアンス研修の内容及び方法を工夫する。</p>
働き方改革	勤務時間を意識した働き方の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤怠管理システムによる時間外勤務状況の把握 ・ 完全退勤時間の徹底 ・ 行事の内容等の見直し ・ ICT活用等における情報共有と会議時間の短縮 	⑱⑲⑳	B	<p>○勤怠管理システムにより、時間外勤務状況を把握するとともに、完全退勤時間の遵守について理解促進に努めた。</p> <p>○行事の内容等を見直すとともに、classroom 等で情報共有を行い、会議時間の短縮に努めた。</p> <p>●繁忙期における業務内容を検証し、教材準備等の時間の確保に努める必要がある</p> <p>◇繁忙期における会議の精選や業務の整理を行い、事務処理時間の確保に努める。</p>
ICT活用	児童生徒のタブレット端末の積極的な活用による学びの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研究との連動 ・ ICT活用事例の蓄積と共有 ・ 学習評価と授業評価を活用した効果検証 	⑤⑥⑦ ⑧⑱	B	<p>○学習・研究部と連携した夏季実技研修やオンデマンド配信を実施し、教員の ICT 活用能力の向上につなげた。</p> <p>○学習アプリ等の教育環境を整備し、学びの充実に努めた。</p> <p>●児童生徒の実態に応じた教材開発や合理的配慮の提供等について、さらなる充実を図る必要がある。</p> <p>◇ICT 活用の好事例共有や教材作成方法に関する研修を実施し、児童生徒の学びの質の向上を図る。</p>

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない